| 授業科目(ナンバリング) | 専門基礎演習Ａ　(DA201) | | 担当教員 | 中村　龍文 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 展開方法 | 演習 | 単位数 | １単位 | 開講年次・時期 | ２年・前期 | 必修・選択 | 選択 |

| 授業のねらい | アクティブ・ラーニングの類型 |
|---|---|
| 社会福祉を学ぶ者にとって、医学の知識は必要不可欠なものである。専門力、情報収集・分析能力、コミュニケーション力、協働・課題解決力および多様性理解力の獲得を目指して、医学と関連した人体の生理機能、健康、保健、疾病の予防などの分野で社会福祉に関係する様々な興味ある項目について、ゼミ生自身が主体となって、テーマを選び、関係した資料を収集し、それらをもとにまとめ、わかりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標とする。さらに、論文執筆の基礎について学ぶ。 | ④　⑤　⑥<br>⑦　⑪　⑫ |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・自分のテーマについて、重要な箇所を指摘できる。<br>・論文の形式、構成について説明することができる。<br>・グループディスカッションにおいて、問題点を指摘できる。 | ・自己の発表<br>・課題レポート<br>・グループ発表 | 5%<br>5%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | ・図書館で文献検索ができる。<br>・収集した文献を読み内容を分析できる。<br>・インターネットを活用した、資料の収集ができる。 | ・自己の発表 | 15% |
| コミュニケーション力 | ・自分のテーマについて、論理的に発表することができる。<br>・グループディスカッションに参加し、十分に討議できる。 | ・自己の発表<br>・グループ発表 | 20%<br>20% |
| 協働・課題解決力 | ・自分が選んだテーマに関して、社会福祉的側面からある一定の見解を持つことができる。 | ・課題レポート | 20% |
| 多様性理解力 | ・自分が選んだテーマに関連した分野のことにも理解ができる。<br>・グループディスカッションにおいて、内容を十分に理解できる。 | ・グループ発表 | 10% |
| 出　　席 | | 受験要件 | |
| 合　　計 | | 100% | |

## 評価基準及び評価手段・方法の補足説明

定期試験は行なわない。自分で決定した発表のテーマについて課題レポート(25%)を作成し、どれ位深く掘り下げて調べているか、また自己の発表(40%)でのプレゼンテーションにおいてどれ位わかりやすくまとめているかが評価の基準となる。また、グループディスカッション(35%)の内容についても評価したい。その都度フィードバックを行い確認する。

## 授　業　の　概　要

将来の卒業研究に向けて、その基礎的な学習として発表用のテーマの選択、文献・資料の収集の方法、発表用のレジュメのまとめ方などを学ぶ。各ゼミ生によるプレゼンテーションが行われた後に、ゼミの全員によるディスカッションを行う。プレゼンテーション担当者は、質疑に耐えられるよう準備を行わなければならない。
この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

## 教　科　書　・　参　考　書

教科書：とくに指定しない。
参考書：必要なものは適宜紹介する。
指定図書：大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法　改訂第二版　玉川大学出版部

## 授業外における学修及び学生に期待すること

教員の講義を学生が聴くという一方通行の授業では無く、ゼミの学生が主体的に何事も進めていって欲しい。プレゼンテーションの資料作りのために可能な限り図書館を利用してほしい。また、インターネット検索を含めた色々な文献検索の方法も習得していって欲しい。社会の状況にも常に目を向けて欲しい。そのためには、色々な新聞やニュースを通して社会の大きな流れをつかんで欲しい。

| 回 | テ　ー　マ | 授　業　の　内　容 | 予習・復習 |
| --- | --- | --- | --- |
| 1 | オリエンテーション① | 自己紹介。ゼミの進め方についての説明。医学、医療、保健、健康などについての発表テーマについての説明。 | 復習：発表テーマを考えておく。 |
| 2 | オリエンテーション② | 発表方法の確認と、発表の分担を決定する。 | 発表テーマについて調べレジュメを作成する。 |
| 3 | オリエンテーション③ | テーマ設定の具体的な進め方について。 | 発表テーマについて調べレジュメを作成する。 |
| 4 | テーマの発表・グループディスカッション① | レジュメの作成と発表（担当者）。グループディスカッション。 | 発表の準備と予定されたテーマの下調べ。 |
| 5 | テーマの発表・グループディスカッション② | レジュメの作成と発表（担当者）。グループディスカッション。 | 発表の準備と予定されたテーマの下調べ。 |
| 6 | レジュメの作成と発表（担当者）。グループディスカッション。③ | レジュメの作成と発表（担当者）。グループディスカッション。 | 発表の準備と予定されたテーマの下調べ。 |
| 7 | テーマの発表・グループディスカッション④ | レジュメの作成と発表（担当者）。グループディスカッション。 | 発表の準備と予定されたテーマの下調べ。 |
| 8 | テーマの発表・グループディスカッション⑤ | レジュメの作成と発表（担当者）。グループディスカッション。 | 発表の準備と予定されたテーマの下調べ。 |
| 9 | テーマの発表・グループディスカッション⑥ | レジュメの作成と発表（担当者）。グループディスカッション。 | 発表の準備と予定されたテーマの下調べ。 |
| 10 | 就職の対策 | キャリアセンターにて、今後の就職活動に向けての心構えと、具体的な就職活動についてのオリエンテーションを実施する。 | 就職活動について良く復習して理解しておく。 |
| 11 | 図書館での説明会 | 将来の卒業研究に向けて、文献検索の方法について具体的に指導を受けながら体験実習を行う。 | 文献検索法について復習する。 |
| 12 | 論文執筆の基礎① | レポート・論文の内容に必要な条件について学ぶ。 | 論文の条件について確認する。 |
| 13 | 論文執筆の基礎② | レポート・論文のオリジナリティー、論理的な構成の文書について学ぶ。 | 論文のオリジナリティーについて確認する |
| 14 | 論文執筆の基礎③ | レポートと論文の違い、本・書籍とレポート・論文の違いについて学ぶ。 | レポートと論文の違いについて確認する。 |
| 15 | 全体のまとめ | 半期のゼミを振り返り、各自の達成点、反省点をそれぞれレポートにまとめる。また、後期のゼミに対しての計画や希望を話し合う。 | 達成点、反省点を振り返り、確認する。 |

| 回 | テ　ー　マ | 授　業　の　内　容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |
| 16 | 定期試験 | | |
| 17 | | | |
| 18 | | | |
| 19 | | | |
| 20 | | | |
| 21 | | | |
| 22 | | | |
| 23 | | | |
| 24 | | | |
| 25 | | | |
| 26 | | | |
| 27 | | | |
| 28 | | | |
| 29 | | | |
| 30 | | | |
| 31 | | | |
| 32 | 定期試験 | | |

| 授業科目(ナンバリング) | 専門基礎演習 A(DA201) | 担当教員 | 坂本雅俊 |
|---|---|---|---|

| 展開方法 | 演習 | 単位数 | １単位 | 開講年次・時期 | 2 年・前期 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 授 業 の ね ら い | アクティブ・ラーニングの 類 型 |
|---|---|
| 授業は年間を通してすすめる演習プログラムを用いて行う。そのため学生が、演習プログラムに参加することで、専門性を軸に人間性を豊かにする諸能力を身に付けることをねらいとする。<br>１、演習室においてゼミ形式の授業を行う。内容は、原著論文や研究資料の書写を行う。<br>２、時代劇、落語劇を、福祉施設へ出かけて行きボランティア公演を行うことで、利用者の生きがいづくりに寄与するとともに、利用者の真の姿を知る。 | ②④⑥⑦ |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 生きがいを求める福祉利用者の課題に対して、公演を通して解決を図ることができる。 | 授業での意見交換と公演<br>レポート | 10%<br>50% |
| 情報収集、分析力 | 福祉施設利用者のニーズを分析し自己及び社会の成長に役立てることができる。 | 授業での意見交換と公演 | 10% |
| コミュニケーション力 | ボランティアシップに基づいて、多様な人々と文化的交流を図ることができる。 | 授業での意見交換と公演 | 10% |
| 協働・課題解決力 | 地域を巻き込んで、アートな創作活動に携わることができる。 | 授業での意見交換と公演 | 10% |
| 多様性理解力 | 利用者とのアート活動を通して、共生社会を実現することができる。 | 授業での意見交換と公演 | 10% |
| 出　　席 | | | 受験要件 |
| 合　　計 | | | 100% |

**評価基準及び評価手段・方法の補足説明**

自分の意見を発表すること。その代表的な発表を授業中にフィードバックし学生間で共有する。授業で行うワーキング、情報を収集、多様性を理解、課題解決に取り組む。これらを最終回にレポートで提出し、その達成度を評価する。

**授　業　の　概　要**

演劇ボランティア公演を創作する。そのための福祉施設利用者の暮らしへの関心を持ち、意見交換を行う。その際、教師が適切に介入して学生の成長を促す。

この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

**教　科　書　・　参　考　書**

教科書：杉本敏夫編（2017)『高齢者福祉論』ミネルヴァ書房

参考書：黒木保博編（2016)「福祉グループワークの理論と実際』ミネルヴァ書房

指定図書：関家新助（2011)『社会福祉の哲学』中央法規

**授業外における学修及び学生に期待すること**

学生だからこそできる様々な研修を体験してください。そのことが将来にソーシャルワーカーとなったとき、プロフエッショナルとしての「価値観」を磨くことになる。専門基礎演習は学生生活設として活用して欲しい。

| 回 | テ　ー　マ | 授　業　の　内　容 | 予習・復習 |
| --- | --- | --- | --- |
| 1 | オリエンテーション | 学生同士を知る。ゼミの運営方針を知る。 | 予習：復習：シラバスを読み前期の計画を共有する。 |
| 2 | 社会福祉のレポートについて | レポート作成のための資料の検索方法について理解できる。原著論文を書写して提出できる。 | 予習：統計資料を読む。復習：書写する。 |
| 3 | 社会福祉の事例検討 | 高齢者の施設を見学し、交流会を調べる。時代劇について知ることができる。 | 予習：訪問先を予習する。復習：記録する。 |
| 4 | 社会科学的視点について | 生きがいに関する資料を用いて、福祉利用者の生きがいについて、時代劇と関連づけて検討できる。 | 予習：生きがい論文を読む。復習：生きがいについて考える。 |
| 5 | 社会（的）問題とは何か | 福祉ボランティアの歴史とその意義を理解することができる。 | 予習：配布資料を読む。復習；課題について考える。 |
| 6 | ボランティアシップについて | ボランティアシップについて理解できる。 | 予習：図書館で検索する。復習：資料をまとめる。 |
| 7 | 時代劇の着物等の扱い方を知る | 福祉ボランティア公演に必要なことがらを知ることができる | 予習：備品管理する。復習：整理しリストを作成する。 |
| 8 | ボランティア公演における時代劇と落語劇 | 福祉ボランティア公演の全体の流れを企画できる。 | 予習：シップを調べる。復習：福祉ボランティアを調べる。 |
| 9 | ボランティア公演の準備 | 福祉ボランティア公演の題目選択や構成･脚本作成ができる。 | 予習：準備を段どる。復習：課題を創作する。 |
| 10 | ボランティア公演の練習 | 時代劇衣装の扱いや舞台での礼節を理解できる。 | 予習：時代考証を調べる。復習：芸能の礼節を深く考える。 |
| 11 | ボランティア公演出張 | 福祉ボランティア公演を行う。 | 予習：準備に備える。復習：思い出を振り返る。 |
| 12 | ボランティア公演の振り返り | 福祉まつりや高齢者との交流会へ参画する。 | 予習：ＩＴで調べる。復習：体験をノートする。 |
| 13 | ボランティ公演の次回企画 | 高齢者の施設を見学し、交流会へ参画する。次回について企画できる。 | 予習：提供資料を読む。復習：企画を構成する。 |
| 14 | 振返り | 前期に身に付けたボランティア公演の技能を振返る。 | 予習：提供資料を読む。復習：討論後の資料をまとめる。 |
| 15 | 前期のまとめ | 振り返りと総括、今後の方向を話し合う。 | 振り返りと発表。 |

| 授業科目(ナンバリング) | **専門基礎演習 A（DA201）** | | | **担当教員** | 石橋　亜矢 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 展開方法 | 演習 | 単位数 | 1 単位 | 開講年次・時期 | 2 年・前期 | 必修・選択 | 選択 |

| 授業のねらい | アクティブ・ラーニングの類型 |
|---|---|
| 本演習では福祉職を学ぶ者として、医学と関連した人間とは何かの理解を前提に、その人らしく生きる意味は何か、そのために必要とされる権利は何か、根拠を基にゼミ生全員で考える力を養いたいと考える。<br>また、卒業研究の基盤となるように、基本的な研究過程および方法論に関する知識の修得の為に、テーマに応じた課題の追及、クリティーク能力、ディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的なスキルの修得を目標とする。この演習を通して他の意見を傾聴するとともに自分の考えを明確にした上で、意見交換し、相互理解を図ることができることをねらいとする。 | ②④<br>⑥⑦<br>⑧⑩⑫ |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | ・3 福祉に求められる課題についてエビデンスを追及し、具体的な解決策を整理し見いだすことができる。 | プレゼンテーション、<br>レジュメ作成 | 10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | ・福祉職としての役割や機能・連携（調整力）に関する知識を体系的に学習することができる。<br>・常に人権を尊重した行動ができ、共によりよいゼミを創造していける豊かな感性を磨くことができる。 | 授業態度・参加 | 55% |
| 協働・課題解決力 | ・3 福祉において意義ある研究課題を探り、自主的に学習することができる。<br>・メンバーと協働し共に考え、アサーティブなディスカッションを行うことができる。 | ディスカッション参加<br>課題レポート | 15%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出　席 | | 受験要件 | |
| 合　計 | | 100% | |

**評価基準及び評価手段・方法の補足説明**

「授業態度・参加」（55%）、「ディスカッション参加」（15%）とし、主体的な参加とアサーティブな姿勢を評価する。「課題レポート」（10%）を課し、本演習の課題、予習・復習のまとめを提出して貰い、フィードバックを行い学生と共有する。発表は、担当した「レジュメ作成」（10%）及び、「プレゼンテーション」（10%）の内容で評価をする。

**授業の概要**

本演習の授業形式は、自主的な学習成果の発表および討議による授業形態をとるので、学生の主体的な準備の基に、進めていきたい。卒業研究の基礎的な知識の修得に繋げるために科学的方法を学び、文献レビューを深める為に、講読・発表・ディスカッションを行う。「医療」と「福祉」「介護」が常に協働していることの認識を持つために、グループによるプレゼンテーションを行う。　※この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

**教科書・参考書**

参考書 :『パソコンで進めるやさしい看護研究』富田真佐子著　保育社
『よくわかる看護研究論文のクリティーク』山川みやえ著　日本看護協会出版会
※演習の内容やテーマに応じて必要な資料・文献は、適宜紹介する。
指定図書:『トラベルビー人間対人間の看護』長谷川浩著　医学書院

**授業外における学修及び学生に期待すること**

本演習のゼミでは、専門的な知識や技術は勿論だが、人と人、心と心を通わせる専門職としての、感性が最も大切である為、その能力を活用していきたいと考える。地道な努力により成長できる事を信じ、一人一人が楽しめる様な工夫を考え　共によりよいゼミを創造していける力を養って欲しい。更に仲間でもありライバルでもある事を認識し、芯の強さを持ちゼミ生の目標に向かって計画的に前進されることを強く望む。
注意点 : やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指導を受けること。

| 回 | テ ー マ | 授 業 の 内 容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション① | 自己紹介　ゼミのあり方・進め方について説明<br>ゼミリーダー等の役割を決め、今後の方針と計画を立案する | 予習：シラバスの確認<br>復習：役割を把握<br>発表テーマを考える |
| 2 | オリエンテーション② | 年間スケジュールを作成し確認する<br>文献講読についての発表担当者を決める | 予習：計画の補足立案<br>復習：文献講読を行う |
| 3 | オリエンテーション③ | 文献講読、福祉に関する雑誌等活用し発表を行い、ディスカッションを行う | 予習：福祉記事を検索<br>復習：福祉記事をまとめる |
| 4 | 図書館利用方法 | 図書館の利用方法と文献検索方法を学ぶ | 予習：文献検索について調べる<br>復習：検索についてノート整理を行う |
| 5 | 文献講読法① | レジュメの作成・プレゼンテーション法・ディスカッションの意義（アサーション法）を学ぶ（石橋） | 予習：アサーション法について調べる<br>復習：発表テーマを考え、レジュメを作成する |
| 6 | 文献講読法② | アサーション方法を理解した上で、与えられたテーマについてディスカッションを行う | 予習：指定資料を読む<br>復習：ディスカッション後のまとめをする |
| 7 | 3 福祉士の理解① | 与えられたテーマについて、プレゼンテーション資料を作成しグループで口頭発表（発表者）の準備をする（介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士） | 予習：発表準備をする<br>復習：3 福祉士についての PP を作成する |
| 8 | 3 福祉士の理解② | グループにてプレゼンテーションを行い、それについてディスカッションを行う | 予習：発表準備をする<br>復習：ディスカッションをして、不足な事柄を調べる |
| 9 | 社会福祉施設の現場を理解する①　（施設見学） | 社会福祉施設見学の実施 | 予習：施設の特徴を調べる<br>復習：学びをレポートする |
| 10 | 社会福祉施設の現場を理解する②　（事後学修） | 社会福祉施設見学の学びの発表と考察等をディスカッションする | 予習：学びをレポート化し発表準備をする<br>復習：ディスカッションをまとめる |
| 11 | 論文の基礎 | 論文の基本について学ぶ（石橋） | 予習：論文の手法を調べる<br>復習：配布資料を整理する |
| 12 | 文献クリティーク① | 文献クリティークを学ぶ（石橋） | 予習：クリティークの資料を読んでおく<br>復習：課題の整理を行う |
| 13 | 文献クリティーク② | 研究論文を読み、グループでクリティークを行う | 予習：課題のクリティークを行う<br>復習：クリティークの整理を行う |
| 14 | 就職対策 | キャリアセンターより講話 | 予習：履歴書作成をし、進路について整理する<br>復習：就職ガイダンスの内容を復習する。 |
| 15 | 前期のまとめ | 前期を振り返り課題を導きレポート作成し提出<br>後期ゼミに向け計画案を話し合う | 予習：振り返りのレポート作成<br>復習：後期に向けて整理 |

| 授業科目(ナンバリング) | 専門基礎演習 A(DA201) | | 担当教員 | 金澤　由佳 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 展開方法 | 演習 | 単位数 | 1単位 | 開講年次・時期 | 2年・前期 | 必修・選択 | 選択 |

| 授業のねらい | アクティブ・ラーニングの類型 |
|---|---|
| 本演習は、「司法福祉」をテーマとして扱い、どのような課題があるのかについて考えられるようにすることによって、人間性をより豊かにすることを目標としている。目標達成のために必要な「司法福祉」の歴史、そして現況を理解する。また、文献の講読・演習を通じて、資料およびレポートの作成方法、議論の仕方、発表（プレゼンテーション）の仕方、文献・資料の検索方法などについても学び、今後の発表、卒業論文作成に必要なスキルを身に付ける。 | ⑤⑥⑦⑧⑩ |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 司法福祉の基礎知識について理解し、説明することができる。 | 議論<br>発表内容・資料 | <br>5% |
| 情報収集、分析力 | 司法福祉に関する課題について考えることができる。 | 議論<br>発表内容・資料 | 5%<br>5% |
| コミュニケーション力 | 課題に関する自分の考えを発表し討論することができる。<br>文章で適切に表現することができる。 | 議論<br>レポート | 20%<br>30% |
| 協働・課題解決力 | メンバーと協働してその解決策を模索することができる。 | 議論<br>発表内容・資料 | 10%<br>20% |
| 多様性理解力 | 司法福祉または関連する事柄に関心を持つことができる。 | 議論<br>発表内容・資料 | 5% |
| 出　　席 | | 受験要件 | |
| 合　　計 | | 100% | |

**評価基準及び評価手段・方法の補足説明**

出席を前提とする。授業への積極的な参加態度（議論）および作成した資料（70%）やレポート（30%）（作成方法を身につけているか、必要とされる基礎的知識や概念が理解できたか及び自分の考えを表現できているか等）で評価する。発表、レポートについては随時コメントしてフィードバックを行う。

**授　業　の　概　要**

本演習のテーマに即した文献や資料（司法福祉に関するもの）を講読し「司法福祉」の知識をつける。同時に資料およびレポートの作成方法、議論の仕方、発表（プレゼンテーション）の仕方、文献・資料の検索方法などについても学ぶ。

担当者に発表してもらい、そのテーマについてみんなで議論をする流れである（発表前に相談等にのります。担当者は、発表するための資料を事前に探してきてください）。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

**教　科　書　・　参　考　書**

教科書：とくに指定なし。

参考書：福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方（2005）

指定図書：『犯罪白書』や新聞等。適宜紹介する。

**授業外における学修及び学生に期待すること**

本演習では「司法福祉」をテーマに課題や課題に対するアプローチを考える。（とりわけ）精神障害者による犯罪について、関心がある人、知的好奇心がある人の受講を大歓迎する。「司法福祉」に関する予備知識は全く必要としない。日頃から司法福祉に関心をもって自分で資料（文献や新聞の記事など）を探すトレーニングをしてほしい。みんなで議論しながら「考えること」、「考えたことを表現する力」をつけていきたいと思っている。

| 回 | テ　ー　マ | 授　業　の　内　容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 自己紹介、今後の予定、演習の運営方法などの確認 | 予習：とくになし<br>復習：目標を立てる |
| 2 | 司法福祉について① | 「司法福祉」の基本的な事柄について、担当教員が提示した内容に即して議論しながら知識をつける | 予習：指定資料の購読<br>復習：知識の定着 |
| 3 | 司法福祉について② | 「司法福祉」の基本的な事柄について、担当教員が提示した内容に即して議論しながら知識をつける | 予習：指定資料の購読<br>復習：知識の定着 |
| 4 | 司法福祉について③ | 「司法福祉」の基本的な事柄について、担当教員が提示した内容に即して議論しながら知識をつける | 予習：指定資料の購読<br>復習：知識の定着 |
| 5 | 資料作成、発表方法について<br>図書館の使い方を学ぶ | 教員による資料作成・報告、および議論の仕方について学ぶ<br>図書館で文献検索をする | 予習：興味のあるテーマを考えてくる<br>復習：資料を作成してみる |
| 6 | 文献講読① | 担当者による資料作成・報告、および全体で議論する | 予習：新聞記事を見つけてくる<br>復習：課題を見つける |
| 7 | 文献講読② | 担当者による資料作成・報告、および全体で議論する | 予習：新聞記事を見つけてくる<br>復習：課題を見つける |
| 8 | 文献講読③ | 担当者による資料作成・報告、および全体で議論する | 予習：新聞記事を見つけてくる<br>復習：課題を見つける |
| 9 | 文献講読④ | 担当者による資料作成・報告、および全体で議論する | 予習：犯罪白書の購読<br>復習：課題を見つける |
| 10 | 文献講読⑤ | 担当者による資料作成・報告、および全体で議論する | 予習：犯罪白書の購読<br>復習：課題を見つける |
| 11 | 文献講読⑥ | 担当者による資料作成・報告、および全体で議論する | 予習：犯罪白書の購読<br>復習：課題を見つける |
| 12 | 文献講読⑦ | 担当者による資料作成・報告、および全体で議論する | 予習：犯罪白書の購読<br>復習：課題を見つける |
| 13 | レポート作成 | レポートの書き方について学ぶ<br>これまでに購読した文献等を使いレポート作成 | 予習：レポート作成<br>復習：レポート作成 |
| 14 | まとめ | 教員による講義形式でのまとめを行い、および全体で議論する、返却したレポートの訂正等をする | 予習：レポート作成<br>復習：レポート作成 |
| 15 | まとめの発表 | 前期「『司法福祉』を学んで考えたこと」を発表<br>返却したレポートの訂正等をする<br>（最終版レポート提出） | 予習：レポート作成<br>復習：発表の振り返り |

| 授業科目(ナンバリング) | 専門基礎演習Ａ (DA201) | 担当教員 | ヴィラーグ　ヴィクトル |
|---|---|---|---|

| 展開方法 | 演習 | 単位数 | １単位 | 開講年次・時期 | ２年・前期 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 授業のねらい | アクティブ・ラーニングの類型 |
|---|---|
| 本演習では、グローカルな視点の習得と人間の多様性に対する感受性の向上を目指す。そのために必要な思考力・判断力・表現力を、参加型学習を通じて、身につけていく。<br>前期は、グローバルに広がる社会問題と、それと繋がるローカルな生活課題に対する理解を深める。その中で、国際ソーシャルワークと国内の多様性に配慮したソーシャルワークの基礎知識を得る。 | ①②③④⑤<br>⑥⑦⑧⑪⑫ |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | 国際的な社会問題に関する資料を解釈できる。 | 小レポート | 20% |
| コミュニケーション力 | 国際的な社会問題について調べ、伝えることできる。<br>国際的な社会問題について自分の言葉で表現できる。 | グループ発表<br>課題レポート | 30%<br>30% |
| 協働・課題解決力 | 国際的な社会問題に関するグループ活動に参加できる。 | グループワーク | 20% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出　　席 | | | 受験要件 |
| 合　　計 | | | 100% |

## 評価基準及び評価手段・方法の補足説明

課題レポート（30%）では、国際的な社会問題に関する知識の習得度を評価する。グループ発表（30%）では、分担する課題について適切にまとめられるかを評価する。小レポート（20%）では、自分の考えを適切にまとめられるかを評価する（文字数不足及び誤字、脱字は減点の対象となる)。グループワーク（20%）では、ディスカッション等への参加態度と貢献度を確認する。

必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。

## 授　業　の　概　要

本演習では、上記の狙いに沿って、教員が提供する資料（文献、ミニレクチャー、映像、統計データなど）を基に、参加型ワークとして履修者同士でグループ作業（ディスカッション、発表、ディベートなど）に取り組む。

具体的には、国際比較の視点を前提に、グローバルな社会課題と国内外の移民・難民情勢をテーマに挙げる。

この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分である。

## 教　科　書　・　参　考　書

教科書：レジュメ等を配布する。

参考書：適宜照会する。

指定図書：安保則夫・ほか編（2005）『クロスボーダーからみる共生と福祉』ミネルヴァ.

## 授業外における学修及び学生に期待すること

日本の社会福祉教育で十分に扱われないテーマを取り上げるため、興味・関心のある学生の履修を期待する。

なお、授業内外のグループワーク及び個別ワークが求められるため、その点を十分に考慮した上で選択することを勧める。

| 回 | テ　ー　マ | 授　業　の　内　容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 自己紹介、シラバスの説明、参加型ワークの見本 | 予習：シラバスを熟読し、演習への期待をまとめる。<br>授業内：履修希望理由を述べる。 |
| 2 | 国際的な社会問題① | グローバルな貧困と格差<br>国際格差に関するディスカッション（前半） | 予習：グローバル格差についてイメージをまとめる。<br>復習：配布資料を分析する。 |
| 3 | 国際的な社会問題② | 国際格差に関するディスカッション（後半）<br>国連開発目標とアジア太平洋地域 | 予習：国連開発目標について調べる。<br>復習：配布資料を分析する。 |
| 4 | 国際的な社会問題③ | 国連開発目標の進捗状況についてグループ間で共有<br>開発と環境的持続性<br>グリーンソーシャルワークの実例と環境的正義 | 予習：気候変動等について調べる。<br>復習：環境的正義の概念について考えをまとめる。 |
| 5 | 国際的な社会問題④ | 開発と環境問題に関するディベート | 予習：各グループ内でディベートの準備をする。<br>復習：各自で意見文を書く。 |
| 6 | 国際的な社会問題⑤ | 児童労働とグローバル化する経済<br>事例を基に寸劇の準備（グループ内で話し合い） | 予習：児童労働と生活の関係について考える。<br>復習：寸劇の脚本を作る。 |
| 7 | 国際的な社会問題⑥ | 児童労働と消費者行動<br>寸劇の公演、全体ディスカッション | 予習：寸劇の練習をする。<br>復習:各自で意見文を書く。 |
| 8 | 国際的な社会問題⑦ | 子どもの人身取引支援ソーシャルワーク実例の映画上映（前半） | 予習：子どもの人身取引について調べる。<br>復習：疑問点を調べる。 |
| 9 | 国際的な社会問題⑧ | 子どもの人身取引支援ソーシャルワーク実例の映画上映（後半）<br>映画の中の事例と支援に関するディスカッション | 予習：映画の中の事例と支援について振り返る。<br>復習:各自で意見文を書く。 |
| 10 | 国際的な社会問題⑨ | 難民の基礎知識とグローバルな難民危機<br>難民体験のアクティビティと国連映像上映 | 予習：難民の定義を調べる。<br>復習：各自で意見文を書く。 |
| 11 | 国際的な社会問題⑩ | グローバルな難民情勢と難民受け入れの国際比較<br>国連映像上映と国内外データの分析 | 予習：日本における難民について調べる。<br>復習：疑問点を調べる。 |
| 12 | 国際的な社会問題⑪ | 日本における難民を映像上映<br>日本の難民受け入れに関するディスカッション | 予習：日本の難民受け入れに関する考えをまとめる。<br>復習:各自で意見文を書く。 |
| 13 | 国際的な社会問題⑫ | 難民支援ソーシャルワーク実例の映画上映（前半） | 予習：スーダン内戦のロストボーイズについて調べる。<br>復習：疑問点を調べる。 |
| 14 | 国際的な社会問題⑬ | 難民支援ソーシャルワーク実例の映画上映（後半）<br>映画の中の事例と支援に関するディスカッション<br>※　期末レポート課題の提示 | 予習：映画の中の事例と支援について振り返る。<br>復習:各自で意見文を書く。 |
| 15 | 国際的な社会問題⑭ | 期末レポートの共有 | 予習：期末レポートを書く。<br>※　期末レポートを授業内で提出する。 |

<table>
<tr><td>授業科目(ナンバリング)</td><td colspan="3">専門基礎演習 A(DA201)</td><td>担当教員</td><td colspan="3">村上　広美</td></tr>
<tr><td>展開方法</td><td>演習</td><td>単位数</td><td>1単位</td><td>開講年次・時期</td><td>2年・前期</td><td>必修・選択</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="7">授 業 の ね ら い</td><td>アクティブ・ラーニングの 類 型</td></tr>
<tr><td colspan="7">社会福祉士・精神保健福祉士として利用者や患者にかかわる際、当然ながら相手の心理社会的側面に目を向ける必要があり、社会福祉の専門家にとって心理学的視点は必須のものである。本演習では、社会福祉学と関連の深い「心理学」に関連するテーマを題材としてとりあげ、文献、著書、資料等をもとに自身の考えをまとめ、プレゼンテーションできるようになることをねらいとする。また、心理学的視点から「社会福祉」について考える中で、受講生自身の興味関心を明確にし、ディプロマポリシーにある社会福祉の専門家としての姿勢を育成すると共に、グループワークやディスカッション等を通して受講生自身の進路決定や卒業研究に向けての意識を高めていくことを目標とする。</td><td>④⑤⑥⑩⑫</td></tr>
<tr><td>ホスピタリティを構成する能力</td><td colspan="5">学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標</td><td>評価手段・方法</td><td>評価比率</td></tr>
<tr><td>専門力</td><td colspan="5">社会福祉学の中で自身の関心あるテーマについて説明できる。</td><td>発表(プレゼンテーション)</td><td>10%</td></tr>
<tr><td>情報収集、<br>分析力</td><td colspan="5">1）自身の関心あるテーマについて、文献、著書、資料等をもとに主体的に調べ、課題を明確にすることができる。<br>2）他受講生の発表内容に関心を持ち、自身の研究課題と照らし合わせながら、疑問点・問題点を指摘できる。</td><td>発表(プレゼンテーション)<br>ディスカッション</td><td>10%<br>5%</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション力</td><td colspan="5">1）自身の調べた内容や考えを、他受講生にわかりやすくプレゼンテーションできる。<br>2）他受講生の発表内容に関心を持ち、自身の考えとの相違点を理解しながら、対等な立場で討議できる。<br>3）グループでの課題に、主体的かつ責任感を持って参加できる。</td><td>発表(プレゼンテーション)<br>ディスカッション<br>グループ課題</td><td>20%<br>20%<br>10%</td></tr>
<tr><td>協働・課題解決力</td><td colspan="5">グループ課題に際し、自身の役割を責任もって遂行できる。<br>課題への取り組みに際し、互いの立場を尊重し、協同できる。</td><td>グループ課題<br>ディスカッション</td><td>10%<br>10%</td></tr>
<tr><td>多様性理解力</td><td colspan="5">自身と異なる意見を理解し、自らの研究に取り入れることができる。</td><td>ディスカッション</td><td>5%</td></tr>
<tr><td colspan="6">出　　席</td><td colspan="2">受験要件</td></tr>
<tr><td colspan="6">合　　計</td><td colspan="2">100%</td></tr>
<tr><td colspan="8">評価基準及び評価手段・方法の補足説明</td></tr>
<tr><td colspan="8">定期試験は行わず、15 回の授業内で行うグループ課題 20%、発表（プレゼンテーション）40%、ディスカッション 40%で評価する。グループ課題については、演習前半で提示するグループでのレポート課題への取り組みと貢献度をもとに評価する。発表（プレゼンテーション）は、各受講生が自身の興味関心に沿ったテーマで作成したレジュメと当日のプレゼンテーション内容で評価する。ディスカッションについては、グループ課題や発表内容についてのディスカッション時に、主体的にかつ責任感を持って参加できているかどうか、また互いの立場を尊重したコメントができているかどうかで評価する。課題や発表内容については、授業内にてフィードバックを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="8">授　業　の　概　要</td></tr>
<tr><td colspan="8">ゼミ形態での授業を基本とし、グループ課題やディスカッションを多く取り入れる。前半は、指定した心理学に関するテーマについてグループで協力して課題レポートを作成する。レポート作成に取り組む中で、文献・資料の検索方法や、レジュメ・レポートのまとめ方について体験的に理解する。後半は、受講生各人の興味関心に沿ったテーマを選び、それぞれの関心に沿ってレジュメを作成し、発表する。レジュメ作成・発表の過程において、自身の興味関心を深め、他者に伝わりやすいプレゼンテーションの方法を学ぶ。また、グループ課題や、発表内容に関するディスカッションを通して、学生同士の意見交換を積極的に行い、学びをより深め合う。<br>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</td></tr>
<tr><td colspan="8">教　科　書　・　参　考　書</td></tr>
<tr><td colspan="8">教科書：特に指定しない。　参考書：適宜指示する。<br>指定図書：石井一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社</td></tr>
<tr><td colspan="8">授業外における学修及び学生に期待すること</td></tr>
<tr><td colspan="8">授業に主体的にかつ責任感を持って参加することを期待する。受講生同士の関わり合いを通して、自身の学びや考えを深め、卒業研究に向けての意欲と知識、研究基礎力を身につけてほしい。そのため、授業全体を通して、他受講生の意見を尊重しながらも、自身の考えを積極的に主張しながら参加してほしい。また、適宜課題を出すため、授業</td></tr>
</table>

時間外での自主的な学びは必須である。課題への取り組みを通して、自身の興味関心について深め、主体的に学ぶ姿勢と、社会福祉の専門家としての自覚を高め、進路選択についての具体的イメージを醸成してもらいたい。
報告・連絡・相談を密に行いながら、ON／OFF のメリハリをつけて授業に参加してもらいたいと思います。

| 回 | テ　ー　マ | 授　業　の　内　容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション① | 自己紹介および本演習の進め方や、評価方法について確認する。また、前期のスケジュールを確認・作成する。 | 予習：シラバスの確認<br>復習：作成した前期スケジュールの確認 |
| 2 | オリエンテーション② | 作成したスケジュールをもとに、年間を通した目標の確認を行う。演習内の役割分担とグループでのレポート課題に向けたグループ分けを行う。 | 予習：前期のスケジュールをもとに、個人の年間目標を作成しておく |
| 3 | オリエンテーション③ | グループでのレポート課題の進め方について説明し、レポート・レジュメの作成手順やディスカッションの方法について学ぶ。 | 予習：これまで作成したレポート・レジュメ等について復習しておく |
| 4 | グループでのレポート課題① | 文献・資料の検索方法とそのまとめ方について学び、レポート課題についてのグループの仮説を立てる。 | 予習：図書館の利用方法・文献検索の方法の確認<br>復習：グループ内で立てた仮説について自身の考えを整理しておく |
| 5 | グループでのレポート課題② | グループで立てた仮説を検証するための資料収集を行い、グループ内で役割分担してレポートを作成する。 | 復習：役割分担部のレポート作成 |
| 6 | グループでのレポート課題③ | 各自が担当した部分をすり合わせ、グループ毎に１つのレポートにまとめ、発表に向けた確認を行う。 | 予習：自身の担当部分について、メンバーに説明できるよう準備しておく |
| 7 | グループでのレポート課題④ | グループ毎にまとめたレポートをもとに発表を行い、それについてディスカッションする。 | 予習：発表準備・練習<br>復習：ディスカッションで指摘を受けた部分についてまとめておく |
| 8 | グループでのレポート課題⑤ | ディスカッションでの指摘を踏まえ、最終的なレポートを作成・提出する。これまでの取り組みについての省察を加え、レポート作成から発表までの手順とポイントを確認する。 | 予習・復習：これまでに使用した資料等の見直し |
| 9 | 発表テーマの選定 | 自身の興味関心のあるテーマについてキーワードを見つけ、関連する文献・書籍等を検索、発表時に使用する題材を選定する。<br>次回からの発表の担当者（順番）決めを行う。 | 予習：自身の興味関心のあるテーマについてのキーワードをあげておく<br>復習：文献・書籍の選定 |
| 10 | 発表（プレゼンテーション）① | 担当者が作成したレジュメをもとに発表（プレゼンテーション）し、発表内容についてのディスカッションを行う。 | 予習：（担当者）自身の選定した題材についてのレジュメを作成する<br>復習：（担当者）ディスカッションでの指摘について自分の考えをまとめる<br>（受講生）発表内容をもとに自身の考えとの相違点について検討する |
| 11 | 発表（プレゼンテーション）② | 担当者が作成したレジュメをもとに発表（プレゼンテーション）し、発表内容についてのディスカッションを行う。 | |
| 12 | 発表（プレゼンテーション）③ | 担当者が作成したレジュメをもとに発表（プレゼンテーション）し、発表内容についてのディスカッションを行う。 | |
| 13 | 発表（プレゼンテーション）④ | 担当者が作成したレジュメをもとに発表（プレゼンテーション）し、発表内容についてのディスカッションを行う。 | 復習：これまで学んだ内容を振り返り、自身の考えをまとめておく |
| 14 | 進路について | これまでの学習、発表内容等についての省察を加え、自身の考えを整理する。実習や就職について具体的にイメージし、自身の進路について考える。 | 予習：自身の進路について具体的にイメージしておく |
| 15 | 前期のまとめ | 前期に作成したスケジュール・目標をもとに、学生個々人の達成点、課題点について振り返り、夏休みと後期のスケジュール・抱負等を確認する。 | 予習：前期スケジュール・目標の再確認<br>復習：前期の振り返り |

<table>
<tr><td>授業科目(ナンバリング)</td><td colspan="2">専門基礎演習Ａ<br>(DA201)</td><td>担当教員</td><td colspan="3">種橋　征子</td></tr>
<tr><td>展開方法</td><td>演習</td><td>単位数</td><td>１単位</td><td>開講年次・時期</td><td>２年・前期</td><td>必修・選択</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="7">授　業　の　ね　ら　い</td><td>アクティブ・ラーニングの 類 型</td></tr>
<tr><td colspan="7">本演習は「高齢者福祉」「介護福祉」をテーマとして扱う。『高齢者白書』を分担発表することで高齢社会の概要を理解する。さらに、支援の必要な高齢者に関わる社会問題についてビデオを鑑賞し、受講生同士で応策や課題についディスカッションする。これらのことを通して、支援を必要とする高齢者の思いや痛み、社会においてどういった問題が起こっているのか考察できるようにする。</td><td>⑤⑥</td></tr>
<tr><td>ホスピタリティを構成する能力</td><td colspan="5">学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標</td><td>評価手段・方法</td><td>評価比率</td></tr>
<tr><td>専門力</td><td colspan="5">高齢社会の現状や高齢者に関わる課題について理解し、説明することができる。</td><td>発表・ディスカッション・レポート</td><td>20%</td></tr>
<tr><td>情報収集、分析力</td><td colspan="5">資料を収集し、社会において支援を必要とする高齢者に関わる課題についてその要因、対応策について考察することができる。</td><td>発表・ディスカッション・</td><td>20%</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション力</td><td colspan="5">受講生同士わからないことや自分の考えを伝えることができる。</td><td>発表・ディスカッション</td><td>25%</td></tr>
<tr><td>協働・課題解決力</td><td colspan="5">受講生で協力して資料収集、発表資料を作成することができる。</td><td>資料作成・ディスカッション</td><td>25%</td></tr>
<tr><td>多様性理解力</td><td colspan="5">様々な生活課題を抱える支援の必要な高齢者及び、支援をする家族の思いや悩みを理解できる。</td><td>ディスカッション・レポート</td><td>10%</td></tr>
<tr><td colspan="6">出　　席</td><td colspan="2">受験要件</td></tr>
<tr><td colspan="6">合　　計</td><td colspan="2">100%</td></tr>
<tr><td colspan="8">評価基準及び評価手段・方法の補足説明</td></tr>
<tr><td colspan="8">本演習では、授業の参加度、グループ作業（資料作成、プレゼンテーション）、ディスカッションの態度や内容、授業内に記述する期末レポートを評価の対象とする。発表のフィードバックを授業内で行う。</td></tr>
<tr><td colspan="8">授　業　の　概　要</td></tr>
<tr><td colspan="8">本演習は「高齢者福祉」「介護福祉」をテーマとしている。高齢社会の現状を調べたり、高齢者に関わる社会問題についてディスカッションすることによって、他者と協力し課題解決する力や自分の意見を述べる力を高める。さらに、高齢社会における問題意識を涵養することを目的としている。<br>この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</td></tr>
<tr><td colspan="8">教　科　書　・　参　考　書</td></tr>
<tr><td colspan="8">教科書：特に定めない<br>参考書：田中共子編（2019）『よくわかる学びの技法　第３版』ミネルヴァ書房<br>指定図書：内閣府（2017）『高齢者白書』</td></tr>
<tr><td colspan="8">授業外における学修及び学生に期待すること</td></tr>
<tr><td colspan="8">本演習では「高齢者福祉」「介護福祉」をテーマとした発表や課題に対するディスカッションを通して、4 年次の卒業論文作成にむけて、問題意識を涵養してもらいたい。高齢期の生活課題は誰しもが直面する課題である。将来、高齢者福祉分野での就職を考えている人や高齢者の抱える生活課題に関心を持っている人はもちろん、まだ将来について漠然と考えている人も、自身の問題としてこの演習に臨んでほしい。</td></tr>
</table>

| 回 | テ　ー　マ | 授　業　の　内　容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 自己紹介、今後の予定、本演習の進め方について説明する | 予習：特になし<br>復習：授業で伝えたことを確認する |
| 2 | 高齢社会の現状と課題① | 『高齢者白書』の担当章の要点をまとめて、発表資料を作成する。資料はポートフォリオにアップする。 | 予習；特になし<br>復習：担当章を読みこみ資料を作成する |
| 3 | 高齢社会の現状と課題② | 『高齢者白書』の担当章の発表。高齢社会の現状と課題を理解する。 | 予習：『高齢者白書』の第1章を読みこむ<br>復習：発表資料を確認 |
| 4 | 高齢社会の現状と課題③ | 『高齢者白書』の担当章の発表。高齢社会の現状と課題を理解する。 | 予習：『高齢者白書』の第2章を読みこむ<br>復習：発表資料を確認 |
| 5 | 高齢社会の現状と課題④ | 『高齢者白書』の担当章の発表。高齢社会の現状と課題を理解する。 | 予習：『高齢者白書』の第3章を読みこむ<br>復習：発表資料を確認 |
| 6 | 高齢社会における問題について議論する① | 高齢者福祉分野の課題についてのビデオ（高齢者福祉の変遷）を見て、ディスカッションする | 予習：特になし<br>復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る |
| 7 | 高齢社会における問題について議論する② | 高齢者福祉分野の課題についてのビデオ（認知症の理解）を見て、ディスカッションする | 予習：認知症について調べる<br>復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る |
| 8 | 高齢社会における問題について議論する③ | 高齢者福祉分野の課題についてのビデオ（行方不明になる高齢者）を見て、ディスカッションする | 予習：認知症について調べる<br>復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る |
| 9 | 高齢社会における問題について議論する④ | 高齢者福祉分野の課題についてのビデオ（自分のことは自分で決める）を見て、ディスカッションする | 予習：自己決定とはなにかについて考える<br>復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る |
| 10 | 高齢社会における問題について議論する⑤ | 高齢者福祉分野の課題についてのビデオ（ターミナルケア）を見て、ディスカッションする | 予習：ターミナルケアについて調べる<br>復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る |
| 11 | 高齢社会における問題について議論する⑥ | 高齢者福祉分野の課題についてのビデオ（介護心中・介護殺人）を見て、ディスカッションする | 予習：特になし<br>復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る |
| 12 | 佐世保市の高齢者に関する取り組みを理解する | 佐世保市の高齢者福祉に関する取り組みについて調べる（老人福祉計画等） | 予習：復習：佐世保市の高齢者に関わる福祉施策について調べる |
| 13 | 佐世保市の高齢者に関する取り組みを理解する | 佐世保市の高齢者福祉に関する取り組みについて受講生同士で報告する | 予習：佐世保市の高齢者に関わる福祉施策について調べる<br>復習：報告内容を確認する |
| 14 | 前期授業内容の振り返り① | 前期の演習で学んだことをレポート（期末レポート）にまとめる。レポートはポートフォリオにアップする。 | 予習：前期の授業内容を振り返る |
| 15 | 前期授業内容の振り返り② | レポートの内容を受講生同士で共有し、高齢者福祉における新たな課題を見つける | 予習：前期の授業内容を振り返る |